

1. 建物概要

建物名称	株式会社 シノミヤ 藤枝下間工場建設工事	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.9	/5	ふつつ 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.1	/5	ふつつ 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.8	/5	ふつつ 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8	/5	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

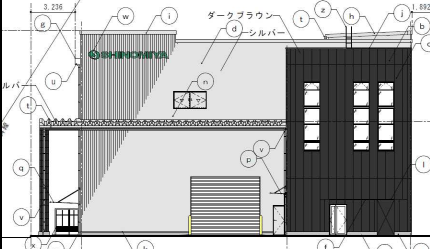
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.9	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④主要な用途上位3種にB以上を使用しEは不使用である。 ④受水槽の更新必要間隔は20年である。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上材材の補修必要間隔 主要内装仕上材材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤緑地づくりを行いシラカシ、サンゴジュ、サツキ、ツツジが現存している。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨BEI=0.27	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマに加えて省水型機器(節水型便器)を用いている。 ⑬発泡剤不使用。(グラスウール断熱材)	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑪ 2.3 ⑪ 2.4 ⑪ 2.5 ⑪ 2.6 ⑪ 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 ⑫ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 材料使用量の削減 既存建築躯体等の継続使用 躯体材料におけるリサイクル材の使用 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 持続可能な森林から産出された木材 部材の再利用可能性向上への取組み 有害物質を含まない材料の使用 消火剤 断熱材 冷媒	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮夏季の風向に対して建築物の見付面積を68%にし、面積を小さくするよう努めている。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
	“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	3.1
		■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰通信手段の多様化を図っている。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
		“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点
		■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳各階高は3.9mである。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ
		■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑底を設けている・視線を遮らず防犯性に配慮している。	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.8	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑯生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 2 3 3.2	⑯ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮夏季の風向に対して建築物の見付面積を68%にし、面積を小さくするよう努めている。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善	

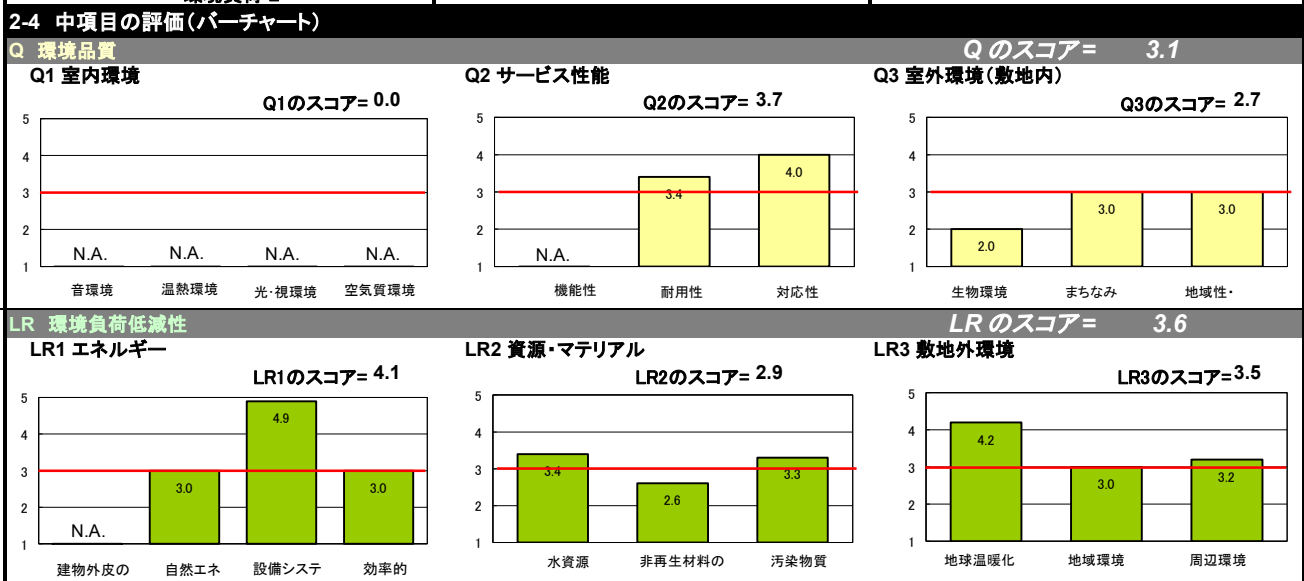
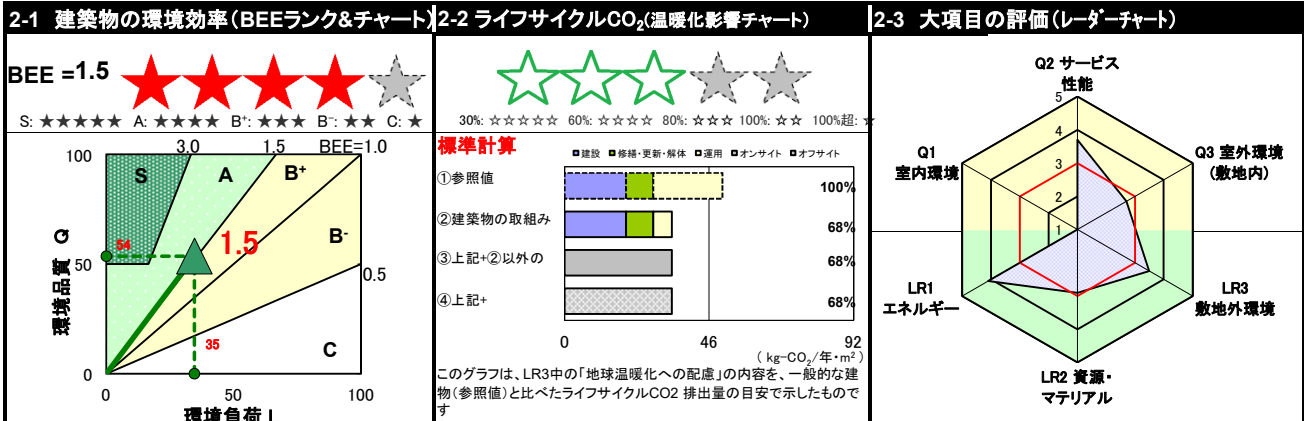
CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	株式会社 シノミヤ 藤枝下当間工場	階数			
建設地	静岡県藤枝市下当間892-1、893、894	地上3F			
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	構造			
地域区分	7地域	平均居住人員			
建物用途	工場	70 人			
竣工年	2027年6月 予定	年間使用時間			
敷地面積	3,375 m ²	2,175 時間/年(想定値)			
建築面積	2,288 m ²	評価の段階	実施設計段階評価		
延床面積	4,689 m ²	評価の実施日	2026年4月14日		
		作成者	水野 野康		
		確認日			
		確認者			



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果である。		その他 0
Q1 室内環境 対象外である。	Q2 サービス性能 事務所の各階高は3.9mである。 1階の壁長さ比率0.13であり空間にゆとりを持たせた。 組立スペースの床荷重は10000N/m ² であり、建物の荷重にゆとりを持たせた。	Q3 室外環境(敷地内) 庇を設けており、且つ視線を遮らず防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー BEI=0.27	LR2 資源・マテリアル S造のため解体が容易である。 節水コマに加えて省水型機器(節水型便器)を用いている。	LR3 敷地外環境 夏季の風向に対して建築物の見付面積を68%にし、面積を小さくするよう努めている。 従業員数に対して十分な駐輪場を確保している。 ゴミの管理・計画をしている。 光害対策ガイドラインの過半を満たし広告物照明を行っていない

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される